

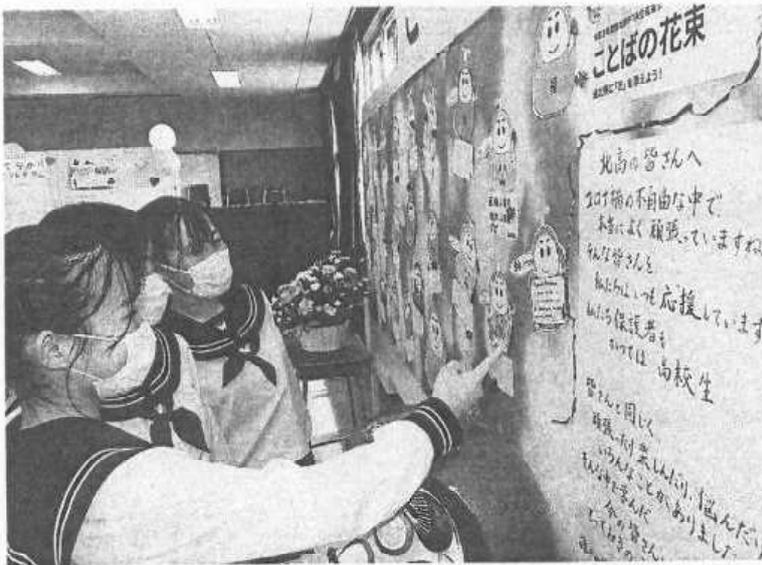
盛北祭 P T A 企画展示「ことばの花束」

～親から子への直筆メッセージ～

8月31日(火)、今年度の盛北祭が開催され、午前中は学校で文化部等の展示発表を行いました。今年度は文化部に加え、PTAも展示に参加。一昨年までは「お振る舞い餅(餅まき)」という形で参加していましたが、コロナ禍で昨年それができなくなったことから、PTAの役員さん方で検討し、親から子どもへの直筆メッセージの展示という形で参加することになりました。

保護者の皆様に協力を呼びかけた結果、50を超えるメッセージを寄せていただきました。大変ありがとうございました。メッセージに一生懸命目を通して生徒たちの姿が印象的でした。PTAでは、このメッセージを今後も様々な場面で活用させていただくとのことです。

また、めんこいテレビと岩手日報が取材に訪れ、めんこいテレビでは31日夕方のニュース番組の中で、岩手日報では9月1日(水)付の朝刊(下の記事)で、展示の様子が紹介されました。



保護者から寄せられたメッセージをじっくりと眺める盛岡北高の生徒

親から子へ ことばの花束

盛岡北高 直筆メッセージ初展示

滝沢

保護者から生徒に「ことばの花束」を贈ろう。盛岡北高(小原由紀校長、生徒635人)が31日に滝沢市牧野林の同校で開いた文化祭で、同校PTA(志田順悦会長)は会

員から直筆のメッセージを集め、校内に展示した。新型コロナウイルス禍で学校行事が制限される中、生徒は親たちの温かい思いやりに触れ、励ましの言葉を心に刻んだ。コロナ禍で文化祭に保護者

が来校できない状況を受け、初めて企画した。展示したのは、保護者から寄せられた50を超える手書きのメッセージ。7月にPTA事務局が呼び掛けて集まった用紙を、縦1帖、横5.5帖の台紙に貼って掲示した。

「苦しい時こそ種をまき続けければ、人生何とかなる」(3年母)、「長い階段を見つめてため息をつくより、一步踏み出そう」(2年母)。思いがこもったメッセージを、生徒たちはじっくりと眺めた。

3年の井河快斗さんは「大学受験を控えており苦しいと感じることも多い中、メッセージが心に響いた。もらった言葉を胸に抱きながら高校生活を送りたい」と前を向いた。

志田会長(48)は「集まらないなら心でつながろう」と企画した。コロナ禍だが、自分たちができる方法を模索し、学校とPTAの両輪で子どもたちを支えていきたい」と力を込めた。

(岩手日報 令和3年9月1日付： この記事は岩手日報社の許可を得て転載しています)



50を超える直筆メッセージを展示



テレビのインタビューに答える志田PTA会長